



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 坂野慎治
 題字 島崎洋路

『森と向き合ったために』

集中コース夏の部開催報告

立秋とその前後の三日間。今にも雨が降りそうな曇天に始まり、最終日によくやく信州らしく爽やかに晴れた集中コース夏の部。今回は、遠くは大阪から、近くは南箕輪村から総勢七名の方々が参加してくださいました。

初日は、自己紹介の後、それではチェーンソーを使ってみましょうと現場へ。チェーンソーを手にするのは初めての方も、普段薪を伐っていましたという方も、エンジンの始動方法や使用時の注意事項を聞いて、まずは丸太の輪切



つるを残して



回し伐り時の動かし方

り・玉切り。下刃(腹側)で伐り下ろし、上刃(背側)で伐り上げ、下刃と上刃を組み合わせて回し伐りました。地面に立てた丸太では受け口伐りの練習を。立ち位置や姿勢を吟味して、水平伐りと斜め伐りを幾度となく繰り返しました。

設定して、胸の高さで直径を、梢と根元を探して樹高を測ります。林齢は切り株の年輪を数えるか、所有者に植えたい年を聞くのがいいのですが、今回は45年で。そうして、持ち帰ったデータを相対幹距比や地位指数、林分形状比で分析し、現状診断。そこから、何年後に次回の手入れをするかを決め、人工林ということもあり資源生産を継続するためのSrを設定する。将来の樹高を地位指数曲線図から求めると、相対幹距比の計算式を逆算してha当りの保残木本数を割り出しました。雨となつた夕方からは、パンクしそ

な体と頭を交流会でリフレッシュ。そして二日目。午前中は昨日の復習。園田班は再度プロット調査に出かけて現状把握の精度を高めて手入れの計画を修正し、小泉班は練習問題でスギ林分の施業計画を立案してみました。

午後は、いよいよ間伐。初日に練習した受け口に、直径の十分の一の「つる」を残しながら、受け口高さの三分の二の位置で水平に「追い口」を伐っていく伐倒です。蝶番になるようにつるを残して伐り倒します。枝払いは一瞬のフルスロットルで幹に沿って滑らかに、造材は伐り口の開く・閉じると、丸太の浮き沈みの動きを見ながら、回し伐ります。丸太は数本づつ寄せておきました。

こうして三日目。午前中は伐木造材のつづき。斜め伐りから受け口を伐る方法への挑戦やかかり木になりそうな木にあらかじめロープを付けて伐倒を行いました。

昼休みには、ぶり縄をやってみたりして、午後は「ひっぱりだこ」での簡単ウインチ集材。機械の設置場所は搬出口。そこ丸太を寄せた極の位置関係が残っている立木を



直径巻尺より太い木は

見回して集める路線を考えます。滑車を使つての折り返しで方向を変えることが出来たり、ちょっと重いけれど、本体を移動させて集材することが出来る自携携帯型ウインチでの集材でした。

そんなアツという間の三日間。森の状態を調査・把握し、将来を考へて施業の計画を立て、残す木を決めて間伐を行い、伐つた材は利用するために集めて出す。この流れのなかで、「何か」を一つでも持ち帰って頂けたでしょうか。森林塾は「何か」を提供できたでしょうか。

忘れてしまったことや疑問質問などは、遠慮なくご連絡ください。そして、これからも何らかの形でお付き合いをさせて頂ければ幸いです。三日間お疲れ様でした。

今回の内容

集中コース 夏の部

8月6日～8月8日
(木～土)

8月6日(木)

8時40分

島崎先生の山小屋に早くも集合。早川講師の挨拶と事務局からの日程説明。塾生の方々やインストラクターの方々の自己紹介。

9時5分

駆けつけてくれた島崎先生から日本の森林や林業、担



斜め伐りと方向

い手の現状のお話を伺う。

9時20分

班分け・身支度をして小屋近くの現場へ。到着後、早川講師から、チェーンソーの構造や始動方法、取扱時の注意事項の説明を受ける。その後、各班に分かれてチェーンソーの始動、丸太伐りを行う。下刃(背刃)で伐り下げ、上刃(背刃)で伐り上げ、そして奥へ上へ手前下の回し伐り。

10時30分

地面に立てた丸太を使って、受け口伐りの練習。ポールを任意の伐倒方向

に立て、受け口伐り位置に立つ。水平伐りは直径の三分の一。斜め伐りは45度に水平線へ。チェーンソー

バーのカーブの部分を持つと45度になります。この水平伐りと斜め伐りは一連の作業で、伐った口の前に立ってみて方向の確認。

12時

小屋へ戻って昼食。

13時

信州鋸の紹介。茅野市の手打ち鋸、興味のある方は商工会へ問合せ願います。

13時20分

森林調査についての早川講師の講義。その目的や直径・樹高・林齢の測り方。

14時15分

小屋から程近い現場のヒノキ林へ移動して測樹開始。20m四方または10m四方のプロットを設置。まずは、プロット内の全ての木の太さを直径巻尺で測る。山側に立ち、胸の高さで水平に。樹高は選抜した数本についてワイゼ測高器で測定。ポールを使って目測もしてみました。林齢は、45年で。

15時45分

小屋へ戻って休憩をとった後、デー

タ整理。現状の地位指数と相対幹距比、林分形状比を求める。地位指数は樹種と林齢と上層樹高から。相対幹距比はプロット内本数をヘクタール当たりに計算しなおした数と上層樹高から。林分形状比は平均直径と平均樹高から。小泉班の調査結果は、上層樹高24・5m、ヘクタール当たり本数750本となり、地位指数は23、相対幹距比は14・7、林分形状比は82。どんな山にしていくか今後の計画を考える。

17時30分

講師講評後、終了。

18時30分

雨天になったのでビニールシートを天井にして、パーベキューにビールの交流会開始。焼きそばが登場する頃には……。

8月7日(金)

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。日程説明のあと、園田班は

10時30分

再度プロット調査へ。小泉班は練習問題のスギ林分データの分析。

11時45分

各班で施業方針を策定。目的と次回の手入れを何年後にするかを決め、その時のSrを設定。地位指数曲線図から上層樹高を予測して、相対幹距比の計算式を逆算する。小泉班は、10年後のSrが17を維持できるように、今回ha当たり277本伐る施業を計画。園田班は現状のSr17・7を10年後も維持できるように、



ワイゼに苦闘

今回ha当たり90本伐る施業を計画しました。どちらの班も資源林として細く形質の悪い木を間伐する方針となりました。

12時

小屋で昼食。

13時10分

富巣の間伐現場へ向かう。

13時40分

各班で機材を準備して、いよいよ伐倒。樹幹の傾き・枝張りから伐倒方向を決める。退避路の確保やチェーンソーのバランス、伐倒にあたっての立ち位置などの説明を受け、初日に練習した受け口に、直径の十分の一の「つる」を残し、受け口高さの三分の二の位置で水平に「追い口」を伐る伐木。幹に沿って一瞬一瞬のフルスロットルで枝を払い、2mの長さに玉切る造材。丸太は数本ずつ寄せておきました。

16時5分

作業を終了し、小屋へ戻



16時45分

雨のため、鳩吹公園の東屋でチェーンソーのメンテナンス。エアクリナーの掃除の時は、チヨーク状態で、カバーをはずして、バーとソーチェーンを分離してバーの溝やオイル孔を念に掃除。

17時20分

講師講評のあと終了、解散。

8月8日(土)

8時25分

島崎先生の山小屋へ集合。日程説明の後、早川講師による伐倒の復習講義。

8時45分

装備を確認し身支度をして現場へ向かう。

9時10分

昨日に続いて間伐。かかりそうな木にはワンタッチラダーで登ってロープを付ける。幹の傾きや枝葉の量をよく見て伐倒方向を決め、確実な退避路・受け口・つる・追い口を。丁寧な枝払い・玉切りを。安定した姿勢・足幅・腰の位置・チェーンソーの保持。無理のない作業ペース・動き。そういうことを考えながら。

12時15分

現場にて昼食。休み時間を



利用して早川講師のぶり縄木登り実演。塾生を代表して青山さんが挑戦してみました。また、人工林林分密度管理図をイントラ小泉さんが説明してくれました。

13時

チェーンソーの目立てをイントラ小泉さんが実演。スチールのMS200の場合、4ミリの丸ヤスリで。30度・まっすぐ・水平。一方通行。そして、どの刃も同じ回数づつ研ぎます。メーカーやソーチェーンの形状によってヤスリの大きさや研ぎ方が異なりますので、取扱説明書をよく読みましょう。

13時30分

元山と先山を各班交代でひっぱりだこ集材開始。本体重量が25Kg、直引力は345Kg、という可搬式ウィンチ。燃料はチェーンソーと共通の混合油。滑車と組

みあわせれば、間伐林地でも保残木の間を縫って集材ができます。

14時20分

作業を終了し、小屋へ。

15時

チェーンソーを選ぶときのコツについてなどの質疑応答。

15時30分

講師総括の後終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/青山さん、岡島さん、熊木さん、小池さん、小林さん、佐藤さん、前澤さん
講師/早川講師
スタッフ/小泉、園田、坂野

次回以降の予定

第六・七回

8月21・22日(金・土)

間伐・集材

特別講師の島崎先生による保残木マーク法の考え方と間伐・簡単集材。二日間ともに測量・測樹の現場で開催します。

一日目は、前回の施業方針から残す木を選び、保残木マーク法の考え方に触れ、測量範囲の林分を間伐。二日目は、間伐の続きと「ひっぱりだこ」という簡単なウィンチを使った集材を行う予定です。

す。マイ装備・マイ道具、ご持参下さい。

両日ともに8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

また、初日夕方からは、バーベキューで一杯、暑気払いをしましょう。山小屋宿泊可。会費は千円程度の予定です。幹事さん募集中。寝袋をお持ちの方はご持参願います。

第八・九回

9月11・12日(金・土)

間伐・集材

間伐・集材の第二回目。一日目は、間伐をじっくりと。二日目は、「キャタトラ」という林内作業車を使った集材を二班一組で行う予定です。

両日ともに集合は、8時30分、島崎先生の山小屋です。マイ装備・マイ道具、ご持参下さい。



リレー通信

「この道を行けよ 行けばわかるさ」 荻上 慶



僕は山梨の出身ですが、祖母の家が塩尻にあります。山際に建っていて少し湿っぽいけれどとても涼しい家です。盆暮れには家族と来て何日も過ごしました。祖父や父に連れられて裏山に山菜採りに歩いたこともあり。夏休みと冬休みの開放感もあって長野県を好きになりました。それで大学時代から長野県に住み着いています。

高校時代に受験勉強で環境問題を学びました。水質汚濁や大気汚染も怖かったのですが、世界中の森林がどんどん消失してしまっているということがとてもショックでした。身近に見られる山はどれも青々としているのにどういうことなんだらうと興味を持ちました。すると徐々に日本の森林の現状がおぼろげながら理解できてきました。日本は国土の三分の二が山林であ

り、戦後の国策で大規模植林された人工林がかなりの面積を占めていること、1970年代の高度成長期に外国材の輸入が促進され、エネルギー革命と相俟って、国内の森林に関わるものが経済的に厳しくなり担い手の減少を余儀なくされたこと、手をかけてもらうはずの人工林の木々がそのまま窮屈に茂ってしまっていること、結果的に水源涵養などの機能も低下してしまっていることなど。鬱蒼と茂った森は本来の姿ではなかったんだ、資源の少ない日本なのに、資源にするはずの森林を捨て置いてきてしまっているんだと思うと、とても残念で悔しく感じました。

教育学部を卒業し、教員として勤めながらも悶々としていました。自分は体力に特に自信があるわけでもないし、誰か森林に入って現状を改善してほしいなあと、山を見るたびに思いました。日常業務に忙殺されつつも、年が経つにつれて放置され続け悪化して

いく森林を、一刻も早く何とかしなければという思いは募る一方でした。昨今の新聞報道や県の森林税導入などに背中を押され、森林関係の仕事に就きたいと決心しました。県職員の立場から比べると収入は激減しますが、林業は命の危険も伴いません。しかし、迷いながら教員を続け定年まで勤めても、大きな後悔が残る気がしたので、周囲からは「よく奥さんが許してくれたね」と多く言われました。教職は僕には向いていなくて、その愚痴や弱音を毎日のように聞かされていたとはいえ、転職に同意してくれた妻にはとても感謝しています。

動き始めたのは昨年の終わり頃からでした。長野の林業労働支援財団に相談に行ったところ、教員を辞めて林業をやるといいますか、自分の息子だったらやはり倒してでも考えを変えさせるね、と言われました。その時はびっくりしましたが、今思えば暖かい言葉だったと思います。そのとき、このKOAさんの森林塾や、他の事業体にも林業希望者向けの講習があること、二月には財団主催の就職説明会があること、三月に塩尻の林業総合センターでチェーンソー講習が開かれることなどを教えてもらいました。

二月の就職説明会はとんでもない大人入りでした。募集が各事業体を合わせて五十人くらい、応募する人はまあ六十人から百五十人くらいじゃあないか、と財団の方がおっしゃっていたのですが、行ってみたら溢れるほどの人数で、定刻に行ったら僕がもたらした整理番号は百八十番を超えていました。聞けば五百人近い希望者が来ていたそうです。各事業体からの説明会ですよ、という話だったはずが、行ってみたら、就職面接です、希望の方は積極的に事業体にアピールしてください、と説明されたのにも面喰らいました。森林組合などいくつかのブースを回り、労働の現状をお聞きすることができたことが大きな収穫でした。

結局四月からの就職はなりませんでしたが、この一年間は勉強期間と肚をくくり、森林塾をはじめ、信州きこり講座や単発の間伐体験に申し込んで参加するようにしています。木曾の林業大学の公開講座を受講したら上松の赤沢自然林がとて良い所だと聞き、NPOのヒノキ間伐を申し込んで一泊して管理局の方やNPOの方の気持ちを知つたり、原村の村民の森の間伐体験に行ったら緑化創造舎の野口代表にお話を聞くことができたり、先日は森林塾のあしと島崎先生にお会いでき、山を取り巻く現状に対する熱い思いを聞かせていただけたりしました。僕にとってこれら一つ一つがとて新鮮で楽しく、また、考えさせられることしきりです。

林業の世界に興味を持ち、進み始めたことを後悔はしていません。しかし、木の名前一つ取ってもわからないことばかり、木材を生産して搬出することを生業とするには、まだまだ学ぶべき事がたくさんありそうです。伐木はじめ技能の面はさらに奥が深く、上達の道は険しそうです。不作法な人間で非礼無礼がたくさんあると思いますが、先生方、諸先輩方、共に学ぶ十六期生の皆さん、どうかよろしくお願い致します。



言葉だったと思います。そのとき、このKOAさんの森林塾や、他の事業体にも林業希望者向けの講習があること、二月には財団主催の就職説明会がある

こと、三月に塩尻の林業総合センターでチェーンソー講習が開かれることなどを教えてもらいました。

二月の就職説明会はとんでもない大人入りでした。募集が各事業体を合わせて五十人くらい、応募する人はまあ六十人から百五十人くらいじゃあないか、と財団の方がおっしゃっていたのですが、行ってみたら溢れるほどの人数で、定刻に行ったら僕がもたらした整理番号は百八十番を超えていました。聞けば五百人近い希望者が来ていたそうです。各事業体からの説明会ですよ、という話だったはずが、行ってみたら、就職面接です、希望の方は積極的に事業体にアピールしてください、と説明されたのにも面喰らいました。森林組合などいくつかのブースを回り、労働の現状をお聞きすることができたことが大きな収穫でした。

結局四月からの就職はなりませんでしたが、この一年間は勉強期間と肚をくくり、森林塾をはじめ、信州きこり講座や単発の間伐体験に申し込んで参加するようにしています。木曾の林業大学の公開講座を受講したら上松の赤沢自然林がとて良い所だと聞き、NPOのヒノキ間伐を申し込んで一泊して管理局の方やNPOの方の気持ちを知つたり、原村の村民の森の間伐体験に行ったら緑化創造舎の野口代表にお話を聞くことができたり、先日は森林塾のあしと島崎先生にお会いでき、山を取り巻く現状に対する熱い思いを聞かせていただけたりしました。僕にとってこれら一つ一つがとて新鮮で楽しく、また、考えさせられることしきりです。

林業の世界に興味を持ち、進み始めたことを後悔はしていません。しかし、木の名前一つ取ってもわからないことばかり、木材を生産して搬出することを生業とするには、まだまだ学ぶべき事がたくさんありそうです。伐木はじめ技能の面はさらに奥が深く、上達の道は険しそうです。不作法な人間で非礼無礼がたくさんあると思いますが、先生方、諸先輩方、共に学ぶ十六期生の皆さん、どうかよろしくお願い致します。

葉は互生で縁には、重鋸歯があり、見慣れてくると、他の葉と見比べてもちよつと菱形っぽい独特の形をしているので、見分けられると思います。もう一つの見分け方のポイントが、若葉に紫褐色の斑紋があるのでそれをたよりにすると良いです。

この木の実には日本のヘーゼルナッツとも言われ、昔から食用として食べられてきました。果実の形もすく特徴があり、象の鼻を三〜四個真ん中でギョツと合わせてくつつけたような形のもので出来、この形が角榛の名の由来のようです。

この木の実は日本のヘーゼルナッツとも言われ、昔から食用として食べられてきました。果実の形もすく特徴があり、象の鼻を三〜四個真ん中でギョツと合わせてくつつけたような形のもので出来、この形が角榛の名の由来のようです。

この角榛の他に、榛と言う樹があり、こちらの方は個体数が少ないそうです。葉も良く似ていますが、葉先がオヒヨウと言つ樹の葉に似ているので、別名をオヒヨウ榛とも言われています。果実は鐘形になります。

私は角榛の若い果実を見つけた事はあるのですが、なかなか熟す時期に訪れる事ができず、未だ味わったことがありません。食べた事のある人の話では、大変おいしいそうです。ウーン残念。今年こそは・・・と思っているのですが果たして。角榛は、山を歩いて見つけた場所を覚えておけば、秋に訪れたときは手に入ると思います。

樹の「コラム」
このはつばみ 角榛

この木の実には日本のヘーゼルナッツとも言われ、昔から食用として食べられてきました。果実の形もすく特徴があり、象の鼻を三〜四個真ん中でギョツと合わせてくつつけたような形のもので出来、この形が角榛の名の由来のようです。

この角榛の他に、榛と言う樹があり、こちらの方は個体数が少ないそうです。葉も良く似ていますが、葉先がオヒヨウと言つ樹の葉に似ているので、別名をオヒヨウ榛とも言われています。果実は鐘形になります。

私は角榛の若い果実を見つけた事はあるのですが、なかなか熟す時期に訪れる事ができず、未だ味わったことがありません。食べた事のある人の話では、大変おいしいそうです。ウーン残念。今年こそは・・・と思っているのですが果たして。角榛は、山を歩いて見つけた場所を覚えておけば、秋に訪れたときは手に入ると思います。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994

E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

「おわりに」
西日本の豪雨、駿河湾を震源とした地震、日照不足の農作物の作況など心配が続く夏。皆様、ご自愛願います。